

第1回 東北アジア地域における観光協力方案 模索のための 日・中・韓 観光フォーラム

開催概要

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|--|
| ■ 日 時 | 06年12月4日～6日 | ■ 主 管 | 韓国 韓国文化観光政策研究院
中国 社会科学院観光研究センター
日本 (財)日本交通公社 |
| ■ 場 所 | 韓国 済州島(済州新羅ホテル) | ■ 後 援 | 済州特別自治道、韓国観光公社、済州観光学会 |
| ■ 主 催 | 韓国文化観光部 | | |

06年12月4日(月)～6日(水)の日程で、日本・中国・韓国の3カ国の観光分野における国の担当セクションや研究機関が一堂に会しての「第1回東北アジア地域における観光協力方案模索のための日・中・韓観光フォーラム」(主催:韓国文化観光部 主管:韓国文化観光政策研究院(韓国)、社会科学院観光研究センター(中国)、(財)日本交通公社(日本))が韓国・済州島で開催された。

このフォーラムは06年7月に北海道釧路市阿寒湖温泉で行われた「日・中・韓三国間の観光交流と協力の強化に関する北海道宣言」を受け開催されたもので、観光分野における3カ国の研究協力を目的として以下のテーマについて当財団研究員も発表および討論に参加した。

- | |
|---|
| 第1セッション「観光交流を拡大するための事業別現状および協力方案」
第2セッション「観光交流活性化のための分野別協力方案」
総合セッション「今後の共同協力方案およびビジョン」 |
|---|

日本からは、国土交通省より1人(総合政策局 国際観光課 観光渉外官 岩月理浩氏)、研究機関関係者として(財)日本交通公社より14人、(株)JTB グローバルマーケティング&トラベルより1人の計16人が参加した。

最終日の12月6日には、「済州宣言文」として3カ国の研究機関の代表が、以下の4点について合意し、宣言文にサインを行った。

- | |
|---|
| (1) 3国における観光研究の実績と成果を相互に交換して、それぞれの国における観光の現状と課題について、相互の理解を深める。
(2) 3国研究機関を中心として産官学の関係機関との連携をそれぞれが図り、より成果のある研究に取り組める体制基盤を構築する。
(3) それぞれの研究機関で取り組む研究について、相互技術的な支援・協力を行うことにより観光発展を図る。
(4) 3国研究機関の支援・協力および共同研究で得られた成果は、幅広く発表して、地域および日・韓・中、東北アジアの観光発展に貢献する。 |
|---|

なお、フォーラム会期内に2国間(韓国-中国、韓国-日本)のワーキンググループ会議が設けられ、(財)日本交通公社は、韓国文化観光政策研究院との間で05年12月に締結した観光研究合意書(MOU = Memorandum of Understanding)に基づき、「今後の日韓観光研究協力の進め方について」の合意を行った。これに伴い、07年度より両機関は「情報協力」「協力研究」および「共同研究」に取り組むこととなった。



①、②: 会場の様子
③: 済州宣言の調印の様子



- ④: 済州宣言調印後の3カ国の研究機関代表。(左から、中国社会科学院観光研究センター長の張氏、韓国文化観光政策研究院長の宋氏、(財)日本交通公社の新倉)
- ⑤: ワーキンググループ会議では日本と韓国の研究協力の取り決めを行った。((財)日本交通公社社長・新倉(左)、韓国文化観光政策研究院長・宋氏(右))

参加者数 200人